

都道府県・ 指定都市番号	44	都道府県・ 指定都市名	大分県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>教科・科目等の枠を越えた横断的・総合的な学習の一層の充実を図るための、「考えるための技法」の活用を主とした指導方法及び組織的・系統的な指導計画についての研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	おおいたけんりつべつづつるみがおかこうこう 大分県立別府鶴見丘高校（736人）				
所在地（電話番号）	0977-21-0118				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://kou.oita-ed.jp//bepputurumigaoka/				
研究のキーワード	単元配列表 教科横断 探究活動 思考ツール カリキュラム・マネジメント				
研究結果のポイント	<p>○ 教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の実施</p> <p>○ 「探究プロジェクト」における取組</p> <p>○ 思考ツールの活用</p>				

1 研究主題等

（1）研究主題

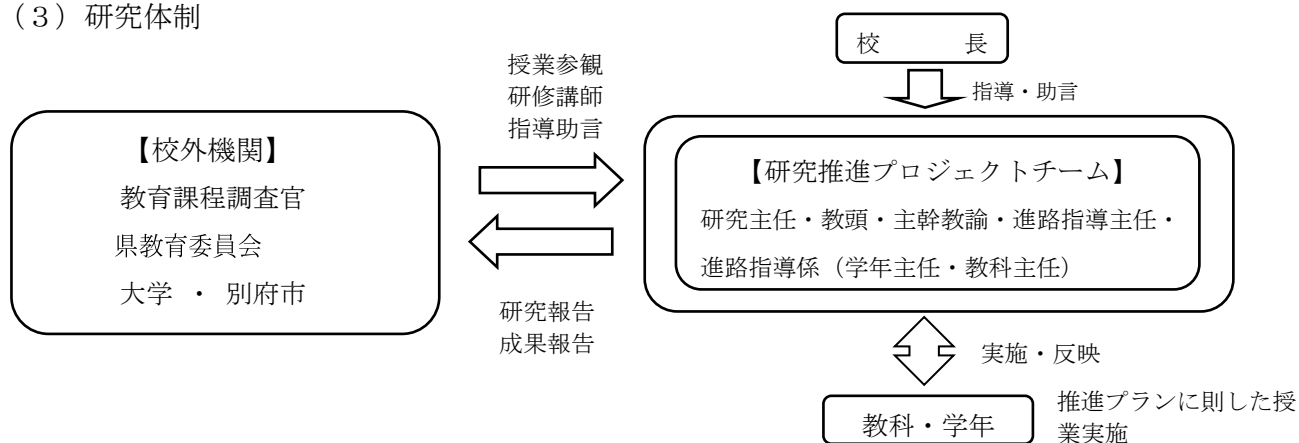
教科・科目等の枠を越えた横断的・総合的な学習の一層の充実を図るための、「考えるための技法」の活用を主とした指導方法及び組織的・系統的な指導計画についての研究

（2）研究主題設定の理由

本校では各教科・科目で育む資質・能力、及び総合的な学習の時間での学びを相互に生かし合う取組が十分ではなかった。このため、教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）を編成し、各教科と総合的な学習の時間の枠を越えた「深い学び」の実現を図ることが、喫緊の課題であった。

「考えるための技法」の活用を主として「総合的な学習の時間」の充実を図ることで、組織的な授業改善の推進に資すると捉えており、そのためには指導計画の明確化・具体化と併せ、指導方法の工夫・改善は欠かせない。そこで、教科・科目等の枠を越えた横断的・総合的な学習の指導方法を確立するため、本主題を設定した。

(3) 研究体制



○「総合的な学習の時間」の具体的な研究計画及び指導計画を「研究推進プロジェクトチーム」が立案し、学級担任及び副担任等が分担・協力して実践・研究を行う。また、教科・科目等の横断的指導計画についても編成し、実践後の評価・検証を行う。

(4) 2年間の主な取組

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等
平成30年度	4月 5月 7月 9～12月 1～3月	<p>【湯の町探究プロジェクト (地域探究)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「育成を目指す資質・能力」を具体化した研究計画の立案と年間指導計画の作成。 ・職員研修 (事業のガイダンス・思考ツールの研究)・生徒へのガイダンス実施。 ・KJ法やジグソー法を用いた職業観や勤労観を醸成させるための学習。 ・職員研修 (「考えるための技法」の活用に係る実践報告・検討) <p>≪地域の課題発見・課題解決策を探る(グループ活動)≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題について、フィールドワークを通じて分析。(思考ツールの活用) ・単元配列表の編成
令和元年度	4月 5～7月 8～12月	<p>【グローバル探究プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の立案と年間指導計画の作成。 <p>≪自己の探究活動から得た気づきを蓄積する≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを用いて、昨年度の取組の成果と課題, 今年度身に付けたい力についてグループ活動により整理し, クラス発表を行うことで目的を共有する。 <p>≪グローバルな視点の課題発見・課題解決策を探る(グループ活動)≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を主体的に進める方法について村川雅弘氏 (甲南女子大学) を招聘し, 「多面的なもの見方」「考えを表現する効果的な方法」「探究活動の進め方」について生徒及び職員で学ぶ。 ・地方と都市・日本と世界について各々の長所短所や課題等について思考ツールを活用して分析し, 探究活動のテーマ設定を行う。 ・課題に対する仮説を立て, 問題解決のための計画を作成する。 ・情報の収集, 調査 (企業・官公庁へのフィールドワーク, アンケート調査)

	1～3月	<p>を行い、情報を整理・分析し、解決策についてグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴嶺会（同窓会）の協力により、修学旅行時に都内企業訪問を行い、探究活動の成果についてプレゼンテーションを行い、指導・助言を受ける。 <p>《自己と社会の関わり方に係る取組（哲学対話）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定したテーマについて、生徒が主導して保護者と意見を交わす。 ・「意見を自分の言葉で語ること」「他者の意見に十分に耳を傾けること」「積極的に問いを投げかけること」を主眼に据え、積極的に語り合う。 ・2年間の「総合的な学習の時間」の活動を振り返るとともに、身に付けた資質・能力が今後のキャリアに活かしていけるように考える。 <p>《学習歴となるポートフォリオの整理》</p>
--	------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の実施
- ② 「探究プロジェクト」における取組
- ③ 思考ツールの活用

(2) 具体的な研究活動

- ① 教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の実施

各教科・科目間における学びと「総合的な学習の時間」での活動が相互に横断的に活用できるよう、各教科・教科において指導計画（単元配列表）を検討・作成した。SDGs 実現に向けたテーマ別探究活動において各教科・科目における学習内容を効果的に活用するとともに、これらの学びを自己の社会との接点とし、キャリア観の醸成につなげる。

- ② 「探究プロジェクト」における取組

今年度の「グローバル探究（2年）」においては、1年次に学んだ課題発見から仮説設定、情報整理のスキルを発展させ、さらに情報分析、課題に対するまとめ、効果的な表現の工夫について一連の流れを学ぶ取組とする。2年次での取組、地域から世界に至る課題の解決に向けてグループで探究活動を行う。活動では12の分野について、地域社会から世界に視野を広げて、日本と世界各国との比較やSDGs 実現に向けた国際社会の抱える課題について探究する。3年次は「未来探究」として、さらにこれまでの取組を発展させ、自己の未来を切り拓くために個人での探究活動を行う。

- ③ 思考ツールの活用

「探究プロジェクト」におけるテーマの設定や、探究活動の具体的な進め方、プレゼンテーションの資料作成等、生徒たちの思考の流れを「見える化」するために各々適切な思考ツールを選択、活用することでより協議が活発になるなど、ツールを使いこなすことで活動の活性化等に繋がった。また、教科・科目の学習においても積極的に思考ツールを活用して考える機会を持つなど、生徒・教職員が教科・科目等、あらゆる場面で効果的な思考ツールの活用について取組を行った。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 生徒は自分で課題を設定し、解決していく探究のプロセスを身につけることができるようになった。
- ゴールを意識し、毎時のスケジュールや課題解決のためのプロセスを全クラスで統一することにより、日常の授業展開も同様にスムーズに行える環境を整えることができた。
- 生徒対象のアンケート（複数回答可）では、2年間の探究活動で「特に身に付いた力」は、「他者とのコミュニケーション能力」（46%）「情報を収集する力」（43%）「社会への関心」（42%）である。（アンケート結果より）
- 「今後更に身に付けていきたい力」は、「知識を繋いで考える力」「創造的に物事を考える力」「既存の知識や経験から新たな課題を発見・解決しようとする力」である。
- 年度当初の教員間の共通認識が十分とは言えず、担当分野ごとの活動に多少の温度差が生じてしまったため、5回の職員研修を実施した。
- 「思考ツール」の活用が容易な教科と難しい教科があることが分かった。
- 「グローバル探究プロジェクト」に関しては、課題設定の時間が不足しており、外部機関との交流も充実させるため、今年度よりも早い時期から取り組む必要がある。
- 生徒対象アンケートより、「現状では十分でない力」として、「表現力」（49%）と回答する生徒が多い。「今後付けたい力」では「プレゼンテーション能力」「相手を引きつける表現力」という回答が多く見られ、今後、論文や発表資料を作成する過程で、自分の考えを明確に表現する力を育成する必要がある。

4 今後の取組

① 教科・科目等の横断的指導計画（単元配列表）の実施

「単元配列表」の更なる改善を行い、各教科・科目が年間を通してどのような思考ツールを活用し、どのような力を生徒に身に付けさせたのかを全体で共有する。生徒が状況に応じて柔軟に思考ツールを活用できるよう、「総合的な学習の時間」「各教科・科目」の担当者が連携を密にし、目指す生徒像の実現のため、次期学習指導要領を踏まえたカリキュラム・マネジメントの実現を推進する。

② 「探究プロジェクト」における取組

2年間の探究活動を通じて、思考ツールを活用した情報の整理や意見の集約ができるようになった。3年次は探究活動の集大成として、自己と社会との関わり方やSDGs実現を妨げる社会の課題を見だし、個人による「課題別探究活動（未来探究）」に取り組む。

③ 思考ツールの活用

より効果的な思考ツールの活用のための教員向けの探究活動に関する研修会を実施し、教員の探究活動への意識の向上を図るとともに、教員の思考ツールに関する指導力向上を図っていく。「総合的な学習の時間」においては仮説を検証するための情報収集や実験方法、調査方法をさらに模索するとともに、各教科においては授業内容を分かりやすく整理したり、思考を深化したりするための手法として、引き続き学校全体での取組を続ける。